

全国子ども連合会表彰	指定都市子ども会連絡協議会表彰
橋本明周 東灘区	岡本かおる 灘区 表谷大助 中央区 溝田康宏 兵庫区 大塚典子 長田区 植田女久美 長田区 林勝義 長田区

兵庫県自治賞	指定都市子ども会連絡協議会特別表彰
松井猛 中央区	猪熊修 指定都市子ども会連絡協議会前副会長 神戸市子ども会連合会前会長

令和元年度 神戸市子ども会連合会会長表彰

岡田真一 東灘区	松川扶由子 灘区	川人久美子 長田区	春日台キッズクラブ 西区
----------	----------	-----------	--------------

第21回 神戸市子ども会絵画コンクール

今年度のテーマは「好きなりのも」。幼児から中学生まで合計167点のご応募がありました。たくさんの中から下記の方々が入選され表彰式が令和2年1月26日こべっコランド7Fホールで行われました。受賞された皆様おめでとうございます。

◆神戸市子ども会連合会会長賞(グランプリ)	◆神戸市長賞
福村葵生 東灘区 川西子ども会	竹本莉央 長田区 真陽子ども会
◆神戸市子ども家庭局長賞	◆神戸市教育委員会教育長賞
A. T. 灘区 青谷子ども会 伊藤煉 中央区 山四子ども会	花房奏 灘区 岩屋子ども会 Y. Y. 灘区 青谷子ども会
◆神戸市社会福祉協議会理事長賞	◆入選
水守妙福 灘区 岩屋子ども会 坂田武琉 須磨区 スリーエンゼル子ども会 西馬ねね 西区 田井子ども会	執行美誓 東灘区 ふたば子ども会 嶋田千春 灘区 岩屋子ども会 間部隼風 灘区 春日子ども会 小阪なつめ 中央区 中二子ども会 岸本菜那 中央区 楠東子ども会 金田一真 中央区 中二子ども会 岡本理沙 中央区 中山手子ども会 H. U. 兵庫区 愛信子ども会 Y. A. 兵庫区 愛信子ども会 黒田結睦 北区 花山手子ども会 峪口真子 北区 なかよしキッズ子ども会 上岡美琴 長田区 真陽子ども会 木島羽菜 須磨区 てんとう虫子ども会
◆神戸市総合児童センター所長賞	
河野響 灘区 春日子ども会 間部丈琉 灘区 春日子ども会 何辰昊 中央区 中山手子ども会 田中愛菜 中央区 中山手子ども会 A. S. 兵庫区 愛信子ども会	
◆神戸市子ども会連合会文化部長賞	
小原千空 灘区 河原子ども会 K. E. 灘区 青谷子ども会 小澤なつ 灘区 岩屋子ども会 南環太 中央区 中二子ども会 坂口琴蒔 長田区 真陽子ども会	



神戸市子ども会連合会会長賞
福村 葵生さんの作品



神戸市長賞
竹本 莉央さんの作品

展示のお知らせ

◇令和2年1月26日(日)~2月8日(日)
神戸市総合児童センター1階エントランス
◇令和2年2月27日(日)~3月4日(日)
花時計ギャラリー(さんちか通路)

information

第二回ドッジビー大会表彰結果

ディスタンス 低学年の部	優勝	辰巳 蒼涼 (GOINOIKE 高取山1丁目子ども会)
	準優勝	辰巳 恵梧 (GOINOIKE 高取山1丁目子ども会)
	3位	高野宗一郎 (青い鳥子ども会)
ディスタンス 高学年の部	優勝	米虫 彩 (青い鳥子ども会)
	優勝	磯 隆也 (水谷子ども会)
	3位	大津 爽 (青い鳥子ども会)
ディスゲッター 低学年の部	優勝	高野宗一郎 (青い鳥子ども会)
	準優勝	磯 彩奈 (水谷子ども会)
	3位	田中 結星 (水谷子ども会)
ディスゲッター 高学年の部	優勝	磯 隆也 (水谷子ども会)
	準優勝	奥野さゆり (青い鳥子ども会)
	準優勝	奥野あゆみ (青い鳥子ども会)

これから開催される各区子連&市子連の行事

東灘区	3月	◆育成者研修会 ◆子ども会広報紙 「みんな集れ東灘っ子」発行
灘区	2月 3月	◆指導者研修会・交流会 ◆まちかどビンゴ!
中央区	3/1(日)	◆区子連ポウリング大会
北区	2/16(日)	◆耐寒登山
長田区	2/1(土) 2/9(日)	◆親子ポウリング大会 ◆長田キッズダンスフェスティバル
須磨区	3/1(日) 3/14(土)	◆卒業記念バレーボール大会 ◆育成者研修会
西区	2/16(日)	◆ダブルダッチ体験
市子連	2/9(日) 3/1(日)	◆キンボール大会 ◆サブリーダー研修③



発行責任者/小林 晋一
広報部長/斎木 賢一
編集長/大塚 典子
子ども会単位数/184単位10,226名(令和元年10月現在)
発行/神戸市子ども会連合会

神戸市子ども会連合会事務局
神戸市中央区東川崎町1丁目3-1
TEL 366-3774 / FAX 351-0684
ホームページ/ <http://www.kodomo-kai.or.jp/kobe/>
メールアドレス/ kodomokai@kobekko.or.jp

2019
10/26
土

里山体験④ 稲刈り&イモ掘り

待ちに待った稲刈りと、イモ掘りでした。当日は厚い雲におおわれた天気だったので、10家族の皆さんが、ゆっくりと集まって来ました。司会はリーダーが務め、山本実行委員長の挨拶に始まり、北本先生から稲刈りの手順について「のこぎりの様な鎌です。手を切らないように注意し、稲を左手で握り右手に鎌を持ち一気に刈り取りましょう。」と説明を受けました。稲は、前日の雨の為ぬれていました。ぬれていると稲刈り機では刈れないので、「稲が乾いたら稲刈り機で刈り取るので、今日は田んぼの1辺をまっすぐに刈ってください」と言われました。「さあ、稲刈り開始です。」経験者も多く、あっという間にたくさんの稲束ができました。大人のひとにぎりくらいの束を6つ合わせて、乾いた2~3本のわらしべでしばった物を干します。先生が、「早いなー」と驚かれるほど、たくさん干すことができました。終わるころには、秋

晴れの晴天になっていました。その後イモ掘り畑に移動です。畑は、もみ殻を入れて下さっていたので足場もよく、しっかりといねいに掘れました。北区子ども会連合会のみなさんが、焼きイモと綿あめを準備してくださっていました。今年のイモの出来は上々で、おいしい焼きイモに、みなさんとても満足されていました。



2019
11/24
日

里山体験⑤ 収穫祭

いよいよ一年間の里山体験の締めくくり、稲の実りを味わう収穫祭が開催されました。北区淡河町の美しく紅葉した神戸青少年公園で、飯盒炊さん(はんごうすいさん)を行いました。11組の家族38名が参加し、リーダーや多くの子ども会役員がサポートして行われました。10時に開会式、小林会長、山本実行委員長の挨拶の後、リーダーによる飯盒の使い方、火のおこし方の説明を受け、内蓋(うちぶた)でのお米の測り方と水を入れる飯盒の線の位置などを学びました。いよいよ班ごとに5つのかまどへ向かいました。かまどでは、薪の組み方、マッチの使い方、新聞紙などの小さい火から細い薪(まき)へ、次に大きい薪へと順次火種を移す方法も学びました。火起こしのうちわ扇ぎに疲れ煙で目が痛いなど悪戦苦闘の班もありましたが、なんとか全て火起こしに成功し、飯盒のご飯炊きを体験しました。小さい子どもも親と一緒に取り組みました。グツグツと飯盒が振動し始め、振動が収まってきたらご飯のできあがりです。やけどする子もなく、焦げ付きなど失敗の班もなく、ふっくらしたご飯が炊きあがりました。感激!

ご飯ができたなら、いよいよ「おにぎりコンテスト」です。子ども全員が参加し、昆布・のり・梅干しなどで、おにぎりに顔を描きました。スーパーマリオなどのキャラクター、ウサギさん、イヤホンなど、アイデアに富んだ力作ぞろいでした。どれも甲乙つけ難かったのですが優秀作品を選び、表彰式が行われ

ました。みなさんおめでとう! リーダーや役員が作ってくれた豚汁・ローストビーフ・卵焼き等を、一年の実りのお米と一緒に美味しく味わいました。食後は全員で、かまどの始末や食器洗いなど後片付けをしました。リーダーたちの率先した動きが目立っていました。閉会式の後、収穫されたお米が参加者のみなさんに配られ、一年間頑張った稲作の里山体験を楽しく締めくくりました。来年もまた頑張るといいですね。



第56回 指定都市子ども会育成研究協議会神戸大会

2019/11/2(土)～3(日) ANAクラウンプラザホテル神戸

全国の大都市の子ども会の代表が一同に集う 指定都市子ども会育成研究協議会が、本年は神戸市の当番で、新神戸駅前のANAクラウンプラザホテル神戸で、2日間に渡り盛大に行われました。

参加都市は、札幌市7名・仙台市4名・相模原市6名・川崎市14名・横浜市7名・名古屋市15名・大阪市5名・神戸市84名・広島市3名・北九州市7名・福岡市12名・熊本市3名で、その他に全子連・行政関係者・神戸市子連リーダー部及び事務局を合わせて、総勢195名が参加しました。

1日目

開会式

開会に先立つアトラクションとして、「和太鼓連・ふくだ」の子どもたちによる勇壮な太鼓演奏が行われ、参加者から大喝采を受けました。



開会式は、佐藤市子連副会長の開会宣言に始まり、小林会長による開会挨拶、野瀬指定都市連絡協議会長の主催者挨拶に続いて、神戸市からの来賓挨拶がありました。野瀬会長からは「今年は災害の多い年で、今回の大会テーマにも安全安心が取り上げられているが、我々は子どもたちの体験に基づく生きるチカラを育てることにより、今後の災害や社会の変動をも乗り越えていける人材に育てていきたいと思う。」と挨拶されました。



表彰式では、被表彰者は個人25名・1団体が表彰されました。永年神戸市子連会長を務められた猪熊修前会長にも特別表彰が贈られました。神戸市灘区子連の岡本さんが受賞者の代表謝辞を述べました。受賞者の記念撮影が行われ、受賞者には即日記念写真が贈られました。

分科会

大会基本テーマ「安心安全で活力にあふれた子ども会活動を！」について更に検討を深めるため、分科会では、次の3分科会に分かれ討議を行いました。

第1分科会のテーマは「魅力ある指導者、リーダーとは」。仙台市からのリーダーの実際の活動に基づく映像を交えた提言をもとに、班に分かれてグループディスカッションが行われ、各班からの討議結果発表もあり、子どものやる気を出させる方法やリーダーの育成などについて多角的に話し合われました。

第2分科会のテーマは「活動で育む防災意識」。提言者の川崎市から「少年消防クラブ」の活動が報告されました。今年は全国的に多くの災害に見舞われましたが、子ども会として多くの防災活動に取り組み、子どもたちに防災意識を教え、体験の中から生きるチカラを育てている取組みについて、活発な意見が交わされました。

第3分科会のテーマは「夢中になれるプログラムの工夫を」。相模原市からの提言をもとに、「自然を生かした体験型プログラムの推進」「地域に根ざした文化伝承活動の推進」「子ども自らが役割分担を考えたプログラム制作の推進」について、各都市の実情や魅力的なプログラムづくりのアイデアなどの意見を交換し合いました。

分科会と並行して、全子連主催の地区推進委員会が開催され、各都市の状況について意見交換し、子ども会の目指すべき方向性や未来の子ども会などについて活発に検討を行いました。



情報交換会

情報交換会の開会に先立ち、アトラクションとして、神戸市立神港橋高等学校生徒による「龍獅團」の演舞が行われました。神戸では南京町などで見かける中国伝統の獅子舞です。女子部員のみ出演でしたが、相方を肩に担ぎ上げるなどの大技も見事にこなし、元気に会場テーブルもくまなく回って、参加者からの喝采を浴びました。



情報交換会では、各都市の情報を交換し合うとともに、神戸市では全9区長が出席され、子ども会の実情を知って頂き、これからの活動の協力を依頼する等の機会ともなりました。他都市の役員同士で久しぶりの再会を喜び合う姿も多く見られました。最後に来年の大会主催の福岡市からのアピールがありました。

2日目

記念講演・全体集会

記念講演は、神戸市在住の防災士でシンガーソングライター石田裕之さんを講師に迎え、「歌でつながるやさしさふわり～支援活動で学んだこと～」と題し、防災知識や自らの被災者支援の活動体験からのお話を頂きました。トークとオリジナル音楽と被災地の体験映像などを交え変化に富み、思わずミュージカルに引き込まれるような、心温まる感動的なもので、自ら被災者にふわりと寄り添う行動の信念を持った実績の重みをずっしりと感じる講演でした。



記念講演に続く全体集会では、1-3各分科会と地区推進委員会の討議の結果が、各分科会の記録者から、簡潔にまとめて報告されました。

またお会いしましょう



神戸市子ども会のメンバー全員で出口に花道を作り、参加者のみなさんをお見送りしました。場内は互いの別れを惜しむ温かい感動に包まれ、解散しました。

このあと、市内視察研修が行われ、参加者には「人と未来防災センター」と「白鶴・灘の酒蔵巡り」を見学し楽しんで頂き、震災の教訓と神戸の歴史伝統の深さの一端を感じて頂きました。

この数年間、神戸市子連として様々な準備を行ってきた集大成とも言える行事でしたが、多くの役員熱心な協力に支えられて、他都市の参加者の方々からも素晴らしい会だったとの称賛を受けながら、盛会のうちに終了しました。

閉会式

閉会式では、大会役員の挨拶の後、指定都市育成研の大会旗が、神戸市から次回開催の福岡市子連会長に引き継がれました。

全国に他都市にも子どもたちの育成のためにボランティア活動をしている仲間がこんなに多くいることを再認識し、さらなる子ども会活動の充実と、来年の再会を互いに誓い合い、閉会しました。



サブリーダー研修②

2019/9/14(土)～15(日) 神戸市立自然の家

みんなでキャンプ!

6月開催の1回目のサブリーダー研修は、オリエンテーションでリーダー活動の基礎を学びましたが、2回目の今回は、いよいよ実践のキャンプ研修です。



子ども会加入の5・6年生を対象に行われました。今年は、六甲山にある神戸市立自然の家での1泊2日の研修です。目標は「集団生活を通して、仲間との協力、思いやる心の大切さを学ぶ」です。



1日目には、レクリエーション・カヌー・キャンプファイヤーが行われました。カヌーを漕ぐ初体験や、キャンプファイヤーで炎を囲んでリーダーが指導する楽しいゲームなど、忘れられない思い出づくりになりました。

2日目には、アーチェリー・キーホルダー作りが行われました。体を使って初めてのことに取り組み、体験による学びができました。先輩リーダーたちの率先した行動から、リーダーとはどう活動すべきかを実際に学べました。

宿泊することで、知らない者同士の距離が縮まり、自然の中での遊びを通して、協力や思いやる心の大切さを感じることができた1泊2日のキャンプ研修でした。



記念講演 演題 「歌でつながるやさしさふわり～支援活動で学んだこと～」

講師 防災士・シンガーソングライター 石田 裕之 氏

略歴 1980年神戸市生まれ。神戸市立有野小学校・有野中学校・兵庫県立兵庫高校・神戸大学法学部卒。1995年阪神・淡路大震災の体験を基に、大学卒業後はシンガーソングライターとして音楽活動を始める。防災士・ひょうご防災リーダーとして被災地支援や防災啓発の講演活動、テレビ・ラジオ出演も多数。現在は防災音楽ユニット「Bloom Works」としても活動中。

講師自身が神戸で学生時代に大地震の被災をした体験が活動の原点になっている。生徒会長として被災者支援活動をスタートし、全国から受けた支援も体験し、その後も被災者を助け励ます活動を続けていきたいと考え、信念を持ってライフワークにしている。防災士としての防災減災知識の普及活動と、シンガーソングライターとしての音楽による被災地励まし活動を、被災地に何度も出かけ継続して続けている。大災害の被災地にはほとんど行って活動しているが、同じ被災地に何度も通い続け、東北には70回以上も足を運んで、被災された方々にそっと寄り添い励ます活動を続けている。

防災減災には、自助・共助・公助があるが、大災害となると公助の力が追いつかず、自ら判断し生きる自助の力と、人と人のつながり共助の力が大切となる。日頃から人のつながりを強化するために、家族防災会議をした

り、近所との挨拶から始まる人間関係作り、日頃から取り組んでおく必要がある。

災害時には、携帯もつながらず、電氣も水道も来ない。正確な防災知識を持ち、デマ情報に惑わされないことが大切で、日頃から地域でも防災クイズをしたり訓練を実践する教育活動が必要だ。自助は「津波でんでんこ」の教えにあるように、津波が迫っているときには整列などせず高いところへまず逃げ、自ら助かること、これはエゴではなく、日頃からいざという時に互いにどこへ逃げているはずだという信頼感を持つための話合いや訓練が行われていてこそ可能となる。皆が信頼しあい助かるための最善の手段なのだ。

表題の「やさしさふわり」とは、押し付けがましい被災者援助は嫌いなので、被災者にふわりとそっと寄り添うような活動を目指しているからだ。被災者を励ます会場で、何の歌で励ましたら良いかわからず、被災者の方々

からのリクエスト曲と一緒に演奏し歌うことから始めたら、皆の元気が出てきたのが良かった。押しつけのメニューではあそこまで親密に盛り上げられなかっただろう。被災者とともに作った歌に「やっべす石巻」や「たんぼぼとれんこん」がある。「やっべす」は一緒にやりましょうという石巻弁。たんぼぼは種をまいて次へ広がる。れんこんは汚い泥の中で美しい花を咲かせる。子ども向け防災ソングに「防災ジャンケンポン」もある。災害に負けない強さと希望から生まれた、皆で作った歌だ。被災者とともに歩んできたし、今後もそうありたい。

この活動の仲間もできて、防災音楽ユニット「Bloom Works」として活動を広げている。これからも、子どもたちや、被災者の方々とも一緒になって、心を寄せ合いながら、自分のできるだけの被災者支援と防災の活動を続けて行こうと思う。



かもめ



生きる力・協力する力を育む子ども会 自ら考え率先行動できるリーダーを育てよう

●指定都市子ども会育成研究協議会神戸大会が11月2日・3日盛大に開催された。その記念講演で、災害対応には「自助・共助・公助」が必要で、自ら考え生きる力の「自助」、ともにコミュニケーションを取り助け合う力の「共助」の大切さも改めて学ぶことができた。また、被災者とずっと継続して苦楽を共にし、ふわりと寄り添う、講師の温かい人間性と行動力には、大いに感銘を受けた。

●全国の都市から集まると、地域で状況の差が大きいのに驚かされる。学校ぐるみで子ども会を運営している市は子ども会の加入率はほぼ100%だが、そうでない市は加入率が低迷している所も多い。行政の関心・協力度も随分異なっている。しかし、次代の宝である子どもたちをたくましく育てていこうという思いは、どこも同じである。子ども会・地域・学校・行政も一緒になって、子ども会の大きな教育力を再認識し、子どもの育成活動を支え合って行かなければならない。

●子ども会は、自然な仲間との遊びの中から自ら考え、共に助け合う態度を身につける、いわば自助・共助の実践力を自然に身につける事のできる活動だ。子ども会のリーダーたちは、活動の中で色々なことが起こっても、自ら考え答えを見つけ、後輩の子どもたちをいたわり支え合いながら、活動全体をまとめていかなければならない。それこそ、これからの社会で求められる人材の姿とも言えるだろう。少子化が進み、異年齢集団との自然な遊びが少なくなった今こそ、子ども会の重要性が再認識されるべきではないだろうか。(K.S)